大会宣言（案）

　岩手県は本州最大の県土を誇り、南部片富士とも称される岩手山をはじめとする奥羽山系・北上山系や日本の代表的なリアス式海岸である陸中海岸国立公園などの壮大な自然、世界遺産にも登録された「平泉文化」を代表とする歴史と文化を物語る多くの史跡があります。

　今年度、全国各地の視覚障害青年を政令中核指定都市である盛岡市に迎え、第60回の記念大会となる全国盲青年研修大会を開催できましたことは大きな喜びです。

この様に大きな大会を開催できますことは、岩手県や盛岡市をはじめとする関係機関、諸団体のご支援とご協力の賜と感謝申し上げます。合わせて、全国各地より、この大会の為にご参加いただきました皆様方に心から歓迎の意を表します。

　2011年３月に発生した東日本大震災では、本県でも多くの尊い人命や財産が失われ、３年が経った今でも仮設住宅での生活を強いられている人が数多くいます。

全国からの暖かい支援は今でも続いていますが、復興にはまだまだ長い時間と努力が必要です。災害時マニュアルの整備、要援護者登録、福祉避難所の設置が全国的に進められています。さらに、視覚障害者自身も事前の備えをし、国や各自治体へも支援対策の一層充実を働きかける必要があります。

　視覚障害者の就労においては、障害者雇用促進法の改正により、2016年度から全ての事業主に合理的配慮が義務づけられることになります。一方、鍼・灸・マッサージを中心とする自営業者に対する支援は未だ不十分であり、今後の改善が望まれます。また、無資格医業類似行為者の問題解決やマッサージ診療報酬適正化に向けた取り組み、新職業の開拓等、幅広く運動を続けることが必要です。

　視覚障害者にとって、安心・安全な移動環境のいっそうの整備が望まれます。近年、プラットホームへの可動柵の設置が都市部では徐々に進められていますが、各鉄道会社に対し地方を含めた全ての駅における早急な安全対策を強く求めていかなければなりません。また公道での安全対策として、音響式信号機やエスコートゾーンの設置増加に加えて、ハイブリッドカーや電気自動車などへの発音装置の使用義務化も緊急の課題です。さらに、教習所での視覚障害者をはじめとする交通弱者についての教育、自転車利用者への安全教育が求められます。

　誰にでも使いやすい共用品の開発は、視覚障害者が快適で円滑な日常生活を送るために不可欠です。タッチパネルを採用する家電製品やタブレット端末などの開発にあたっては、各メーカーに当事者としての要望を伝え、よりよい製品開発を働きかけていく必要があります。また、金融機関における代筆・代読支援についても引き続き利用しやすい環境整備が求められます。

　多くの視覚障害者が情報源としているテレビ放送では、必要な情報を十分に得られる環境が整っているとは言えません。緊急放送を含めた字幕の音声化を、各テレビ局や総務省に引き続き要望していくことが重要です。

　私たちはこの大会を契機に、豊かな社会を築き、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指していくことをここに宣言します。